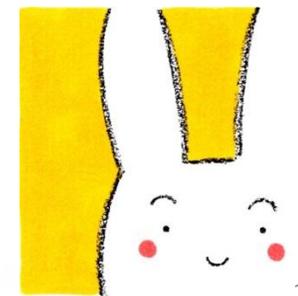




尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業報告会

子育て支援について私たちが できること

園田学園女子大学
人間教育学部 児童教育学科
3回生(黒木ゼミ)





活動内容

連携させていただいた市民活動団体：特定非営利活動法人 やんちゃんこ

活動時期：2020年10月～12月

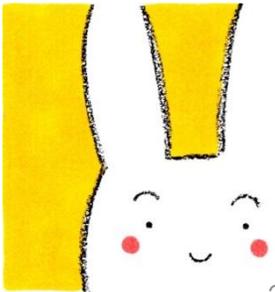
場所・内容：わいわいステーション 見学・参加

虹色カフェ 見学

こども通所サービスにじいろ 見学・参加

塚口幼稚園 子育てサークル「つかぐちkids」 見学・参加

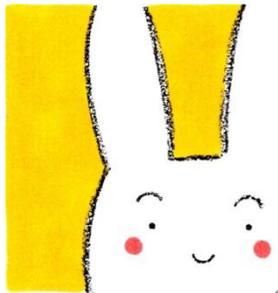
子育て領域講演会（オンライン開催） スタッフとして参加



活動場所について

- ・子育てサークルやんちゃんこ：読み聞かせや、おもちゃ作り、季節のイベントなどを通して五感を使って体験をする場
- ・わいわいステーション：各専門家による講習や栄養士・保育士などへの相談会を行う場所
- ・こども通所サービスにじいろ：人と人がつながり、専門機関とつながり心と心をつなぐ場所
- ・塚口幼稚園「つかぐちkids」：未就園の子ども同士がかかわりを持つ場。入園を見通して幼稚園になれるために、週に1回行われている。

塚口幼稚園には2週にわたり行くことができたので、塚口幼稚園での活動を見ていく。





塚口幼稚園「つかぐちkids」で関わった主な活動

1.子どもたちに名札をつける。

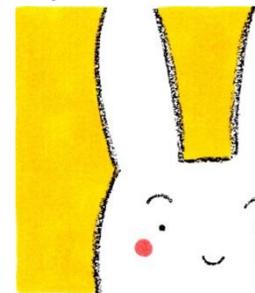
*まず最初に子どもたちの名前を呼びながら名札を付けコミュニケーションをとることができるようにした。また大きな声で呼ぶように心がけた。

2.子どもたちとハイタッチなどをして、コミュニケーションをとる。

*保育者と同じ場所に座り、子どもたちと触れ合うことができるようにした。高さを変えるなどして、子どもたちが楽しくすることができるようにした。

3.朝の会に参加をする。

*朝の会に参加した際には保育者と同じように子どもたちと接するようにした。また、子どもと手を繋いだりすることで、子どもとの距離を縮めることができた。



4. 園庭や室内で活動をする。

*子どもと共に園庭で遊んだり、室内での活動にかかわったりするなどした。園庭で遊ぶ際には子どもの安全を保てるように心がけをした。子ども同士で遊ぶことができるように工夫をし、子ども同士で関わることをできるようにする。

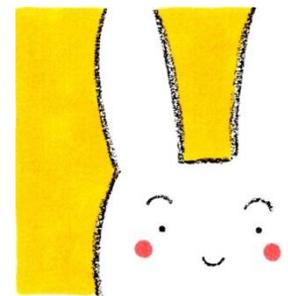
5. 終わりの会に参加をする。

*朝の会と同じように子どもとコミュニケーションを取るようにした。また関わっていない子どもと関わるようにした。

6. 降園を見届ける。

*降園をする際に迎えに来ている子どもの保護者などと連携をし、迅速に降園をすることができるようにする。

活動の合間合間に水分補給や排泄に行く時間を設けており、その際に排泄に関わったりした。排泄の際には子どもの状況を見ることができるようになっていて、子どもの行動を把握することができるようになっていた。



部分実習について

まず最初に「とんとんとんとんひげ
じいさん」のアンパンマンバージョン
をした。大きな声で子どもたちに
わかるように心がけをした。また子
どもの目を見ながら笑顔でするよう
に心がけをした。



「おおきなかぶ」を読んだ。大型絵本
を選ぶことで子どもの興味をもつこと
ができるようにした。
また絵本の内容で子どもが興味をもつ
ところをゆっくり読んだり繰り返す
ことで、子どもがより興味をもつこと
ができるようにした。



虹色カフェ見学後のシェアリング

特定非営利活動法人 やんちゃんこ
代表理事 濱田英世先生とのお話

・子どもとの関わり

・保護者との関わり

・地域との関わり



子どもとの関わり

- ・少し悪いことをするようになった
 - ↳「だめだよ」だけでなく《なぜ》《どうして》を考える
- ・いたずらをする子、お利口な子だけでなくその間にいる子どもにも目を向ける

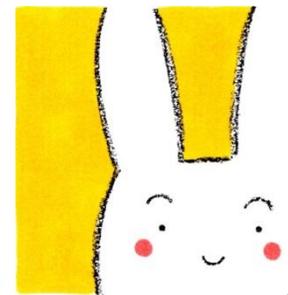
保護者との関わり

保護者の子育てに先入観をもたない

例) 3つ子の保護者に「大変ですね」✕

↳「どうですか？」と聞き出す

最初は同調、少しずつ良い方向へもっていく



地域との関わり

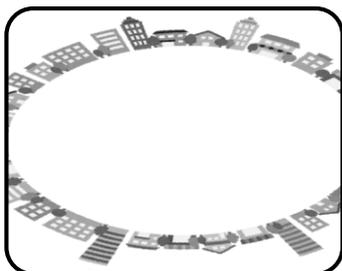
- 地域環境を知る
↳ 家庭環境を知るヒントになる
- 地域資源や情報を把握する
↳ 引き出しにすることが大切



大切なこと



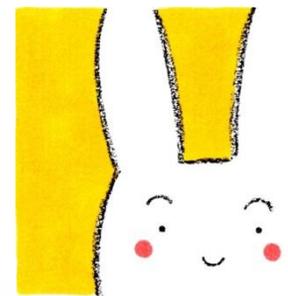
コミュニケーション



地域資源



抱え込まない





子育て領域講演会『発達特性の理解と関わりについて』

開催日時：2020年12月4日（金）14：00～16：00

会場：YouTube（オンライン）ライブ配信

講師：兵庫県立尼崎総合医療センター
小児科医長 石原 剛広 氏

演題：発達特性の理解と実践～レジリエントな生き方を考える～

* スタッフとして参加し、講演会の準備から片付けまで一緒に行った。



講演会での役割

①学校門から控室までの誘導

- ・石原先生をお出迎えして、控室までご案内する。

②お茶出し

- ・石原先生、その他関わってくださっていたスタッフ皆様へお茶を出す。

③控室から会場への誘導

- ・講演が始まる前と終わった後にご案内する。

④司会の補助

- ・リハーサルの時に、流れを確認したり、濱田先生の司会の補助を行う。

⑤カメラマン

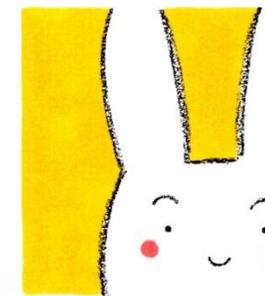
- ・石原先生の講演風景やスタッフの動きなど、講演会全体を写真に撮り記録する。



上記のことを、やんちゃんこのスタッフの方と
1対1のペアになり行った。



写真は、お茶出しをした学生と
やんちゃんこのスタッフの方が
石原先生とお話されている様子
です。



また、講演後には石原先生から貴重なお話を聞かせていただいた。講演より詳しい内容や質疑応答をさせていただきとても貴重な体験になった。



講演より学んだこと

「発達特性の理解と実践」

→発達特性とは？

発達に特性があることをいう。

代表例として、自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）や学習障害（限局性学習障害）、注意欠陥多動性障害（注意欠陥・多動性障害）、その他の特性がある。

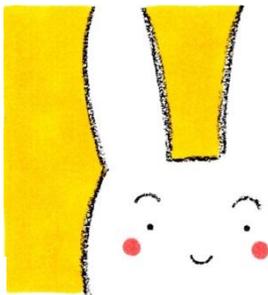
特徴として挙げられるのは、マイルール（こだわり）が強い、少しずれていたり、こころの理論の遅れが見られ、マイルールにとらわれがちである。

「～レジリエントな生き方を考える～」

→レジリエントとは？

心のしなやかさ、回復力のこと。

レジリエンスの要素として、「自分の軸」「しなやかな思考」「対応力」「人とのつながり」「セルフコントロール」「ライフスタイル」の6つがある。



○発達特性の見分け方

日常生活で、家族のような長い時間を過ごさない限り、なかなか特性を見分けることが出来ない。では、どのように見分けるのか。

観察（90%）＋問診（10%）＋心理検査（参考）

観察のポイント

- ◎顔つき・・・合わない視線、鋭い眼光、冷たく硬い表情、きれいな顔立ち
- ◎姿勢・・・落ち着きがない、ぐにゃぐにゃ、ぶらぶら、ぎこちない
- ◎歩き方・・・ひよこひよこ、直線的で硬い、つまづく、ぶつかる
- ◎話し方・・・10対0と一方的、形式的、硬い、偏り、たわいもない話が苦手
- ◎容姿・・・無頓着、不潔感、寝癖、いつも同じ服を着る、過剰にこだわる
- ◎興味・・・ポケモン、鉄道、二次元、中世のすごろく、などマニアックなもの
- ◎行動・・・新奇場面が苦手、ルーティン、儀式的・形式的行動、周囲の巻き込み、マイペース、非言語的やり取りが苦手、切り替えが苦手、だらしない、0か100と極端な行動
- ◎適応・・・失敗や挫折を含めた経験による自己理解を通じて適応していく

また、ギフテッド（gifted）というものもある。ギフテッドとは、いわゆる天才と言われるもので、「神から授けられた」という意の生まれつき高い能力をもつ人たちのことである。



理解のある関わりについて

かかわりの3原則（小学4年くらい）

・ほめる

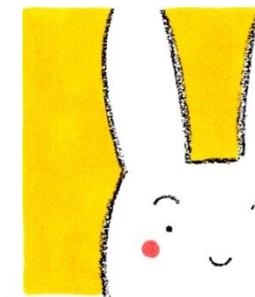
- 好きなこと、得意なことを見つける（ゲーム、動画以外で）
- 同じ目線で一緒に楽しむ、没頭する（親が楽しむ）（また妨害はしない）
- 苦手なことを無理強いしない（適度なストレスは不要）

・あきらめる

- 興味がないことはまず学習しないことを理解する
- 不適切な行動は特性のパターンであり、感情的になって本気で怒らない
- 手伝ってあげる、一緒にすることを受け入れる
- 自傷他害行為はシンプルにきちっと注意する。

・ルールを決める

- かんしゃく/巻き込みは計画的に無視を
- 適切行動とごほうび（トークンの活用）
- 世間の常識はうちの非常識でよい（携帯電話の所有など）



かかわりの3原則（思春期以降）

・みとめる

- ひとりの人間として個性と人格を尊重する（親の管理から脱し、自主性を伸ばしていく段階）
- いろいろとやらせてみて失敗させてみる（失敗からレジリエントな生き方を学ぶ）
- 些細な成長でも見逃さず、承認してあげる（中学生でもスキンシップが必要な男子は多い）

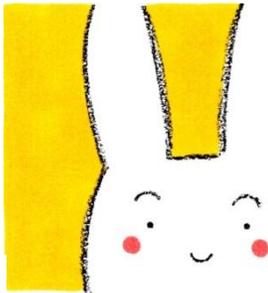
・あきらめる（思春期以降）

- 興味がないことはまず学習しないことを理解する
- 不適切な行動は特性のパターンか、もしくは長年のつまづきの結果である（*二次障害の可能性）
- 他害行為、違法行為は厳重に注意し対応する

・失敗させる

- 失敗したわけではない。それを誤りだといっってはいけない。
勉強したのだと言いたまえ。
- 私は失敗したことがない。
ただ、一万通りのうまくいかない方法を見つけたただけだ。
- 困るということは、次の新しい世界を発見する扉だ。
トーマス・エジソン

*二次障害とは・・・個人因子と環境因子により二次的な問題が起きること。



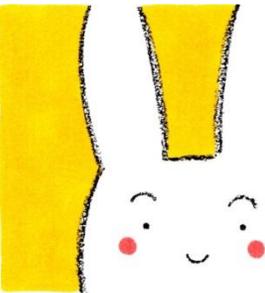


講演会に関するアンケート

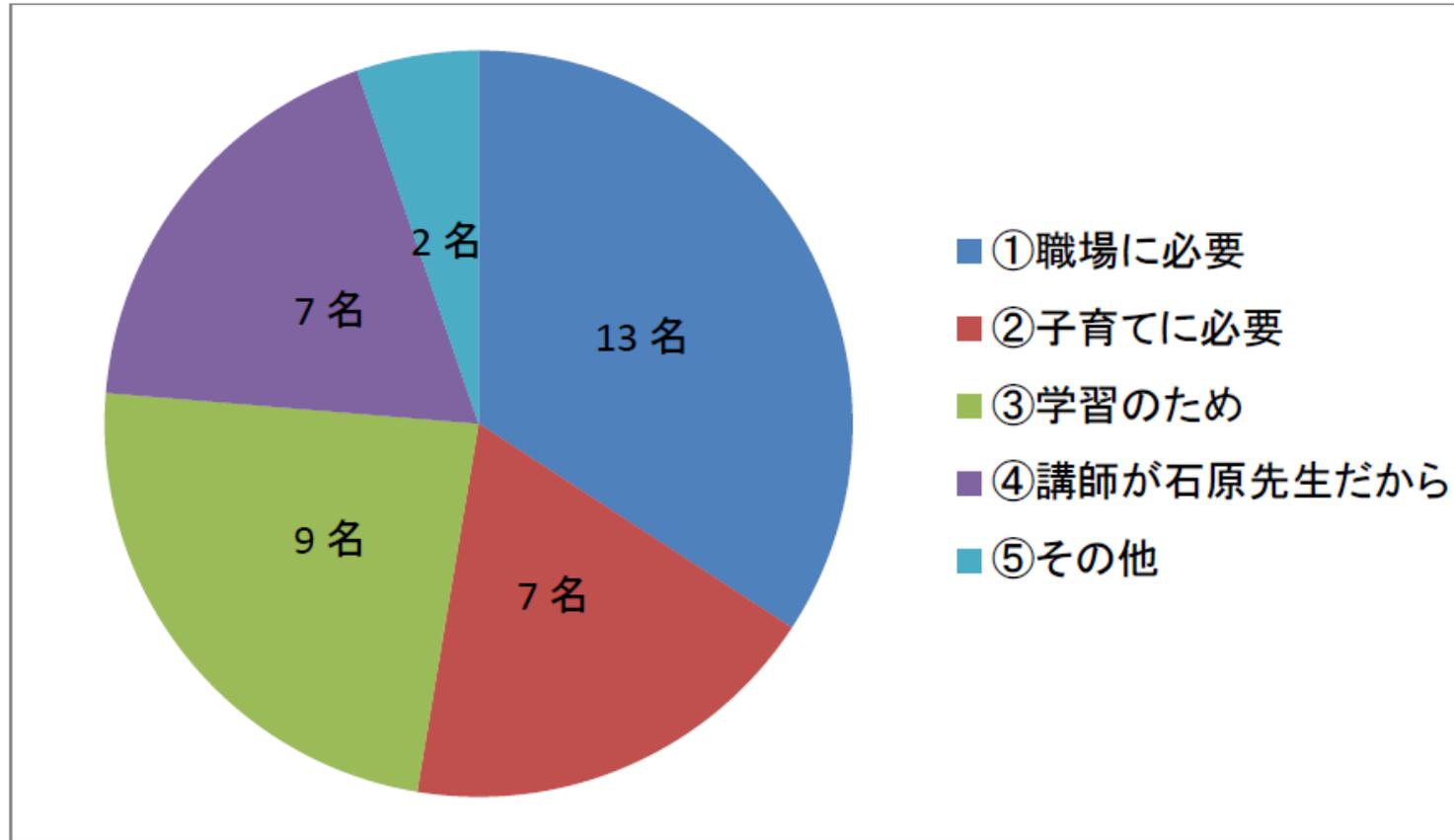
実施期間：講演会后～2020年12月31日

講演会后、アンケートのご協力をお願いし、31名の回答を得た。
その一部を報告する。

※講演会は約400名の方の申し込みがあった。

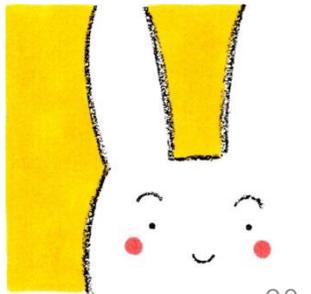


Q、講演会にお申込みの動機は何ですか？

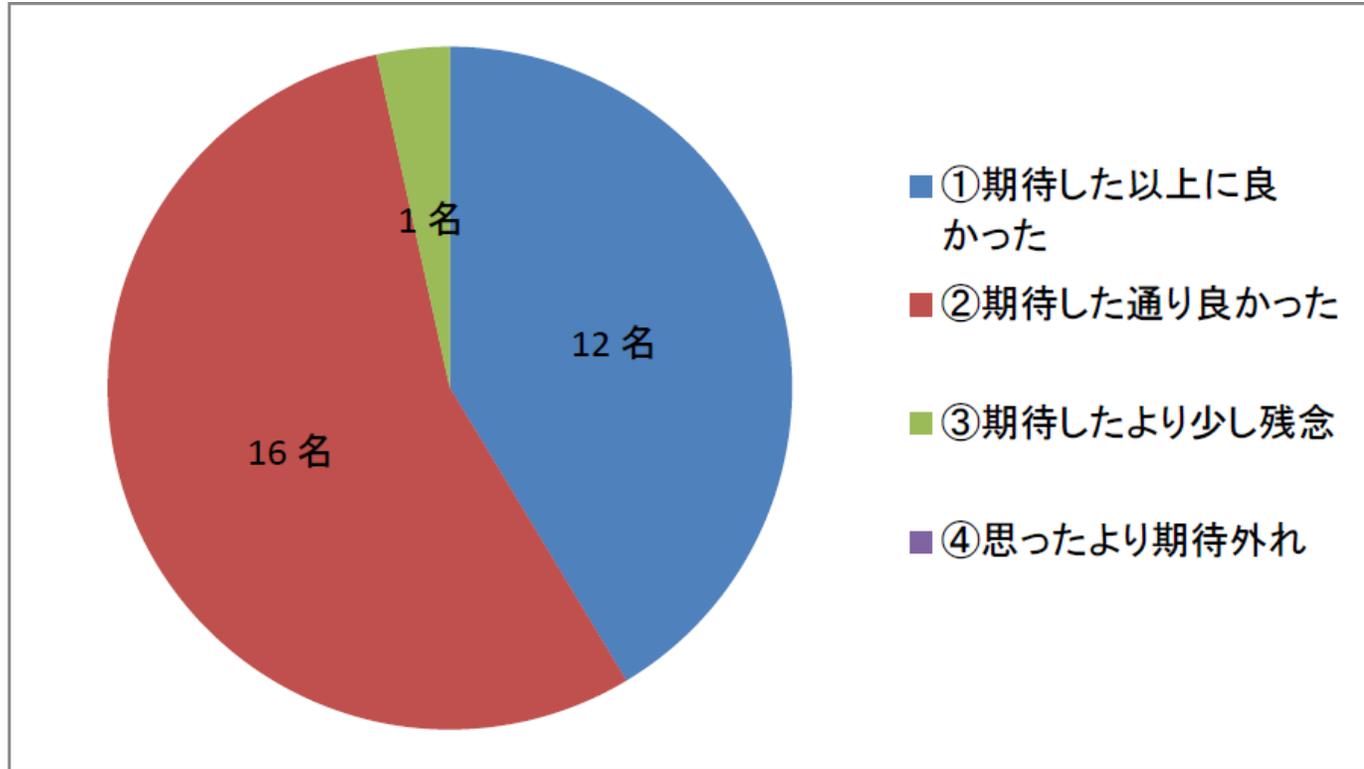


その他の回答

- ・子育ての参考にするため
- ・興味のある題材



Q、講演会について満足でしたか？



回答例

- ・とても分かりやすく、子どもに寄り添った視点の先生のお話で、勉強になった。発達特性のある子はもちろん、すべての子ども、親にとってとても参考になった。
- ・全体的に分かりやすく、特性に対する捉え方が変わった。

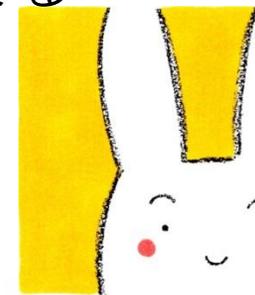




今回の講演会全体に対する意見

回答例

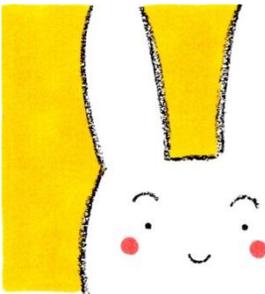
- ・ 小学校の教諭をしています。いろいろな特性を持っている児童がいます。今回、お話しの中で自分がこれまで子ども達にしてきた対応が良かったのか確認できる場でもあった。
- ・ 既に利用者の方で対象となる方がおられたので、また保護者の方に先生の講演内容を基に、お子様への接し方等をお伝え出来ると思いました。



まとめ～活動全体を通しての学び～

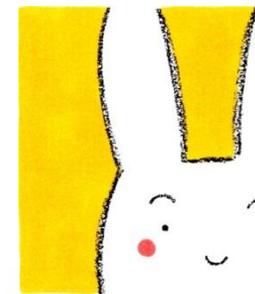
やんちゃんこ・幼稚園での活動の感想

- ・発達段階が様々な子どもがいる。
- ・やんちゃんこでの学びがあり、幼稚園では“グレーゾーン”と呼ばれる子どもとの関わり方が少しわかった。
- ・保護者の方には、一人ひとり様々な悩みを抱えている方がいる。
- ・保護者同士で話すことができたり、子ども通所サービスがあったり支援を行っている施設が身近にある事を知ることができた。



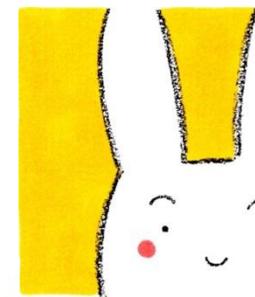
やんちゃんこ・幼稚園での活動の学び

- ・発達段階に合わせた支援や援助をしていくことが大切。
(特性を持った子ども達への支援も同じ)
- ・保護者の悩みやお話の受け止め方は沢山あり、保護者の気持ちに寄り添うことが“理解”に繋がる。
- ・保護者の不安や悩みを少しでも解消できるように地域にも目を向けることが大切。(地域に設置されている支援施設やサービスなど)



講演会・スタッフを体験してみたの感想

- 同じADHDの子どもでも、同じASDの子どもでもやはり個人差があって同じ特性でも一人ひとり違った特性(こだわりなど)がある。
- 特性のある子どもに対しての関わり方を知ることができ、“特性”についての考え方が変わった。
- 裏方を体験して、念入りにリハーサルを行っていても想定外の事が起こったり、トラブルがあったりするので様々な想定をして動くことが大切だと感じた。

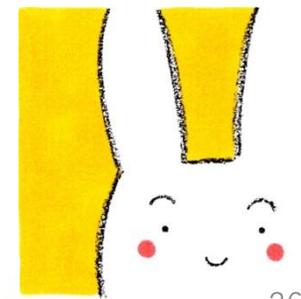


講演会・スタッフを体験してみての学び

- ・ 子どもの**特性に合わせたサポート・見守り**をしていくことが必要。
- ・ 自分の持っている特性の概念で子どもを判断するのではなく、**考えの視点を変えて**“特性”を見ることも大切。(しなやかな思考に変える)
- ・ 裏方の仕事では、**臨機応変**に対応・様々な**トラブルを想定**しておくこと・冷静に且つ見ている人への**配慮(声掛け・対応など)**をすることが大切。

私たちができること

- ・ 地域の子育て支援サービスを調べて大学内の掲示板に貼りだす。
- ・ 子育て支援施設に足を運び、その特性の子どもに合わせた関わりをしていく。





ご清聴ありがとうございました。

編集して後日Youtubeにアップする予定です。

感謝

NPO法人やんちゃんこのスタッフのみなさん
ありがとうございました。

